

# 国語科学習指導案

指導者 ○○ ○○小学校  
担任 ○○ ○○ (T1)  
栄養教諭 ○○ ○○ (T2)

1. 日 時 平成 29 年○月○日 (○) 第 2 時限 (9 : 45～10 : 30)
2. 学年・組 第 2 学年○組 在籍○名
3. 単 元 名 きせつのことば 2 「夏がいっぱい」(光村図書 2 年上)
4. 学習の系統

本校では季節に関わる言葉について学年ごとにテーマをもうけ、学年の発達段階に応じて日々の生活と四季について学ぶように系統づけて指導している。各学年のテーマは下記のとおりで、それぞれの学年で春夏秋冬の単元を設定している。

2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
身近な動植物	行事	風景	気象	二十四節気

## 5. 学習目標

- 季節に関わる言葉を探し、経験と結び付けて文章を表すことができる。
  - ・ 言葉には、事物を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。
  - ・ 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、文章に書くことができる。

## 6. 評価規準

国語への関心・意欲・態度	言語についての知識・理解・技能	書く能力
季節の動植物にかかわる言葉を楽しんで探そうとしている。	季節や動植物や季節を感じる言葉のまとまりがあることに気付いて文章書いている。	季節を感じた経験を思い出して文章を書くことができる。

## 7. 食育の視点

- 食に関する指導の目標
  - ・ 食べ物と季節には深いかかわりがあるということを知る。(食文化)
- 食に関する指導の進め方
  - ・ 食べ物で季節を感じることができることを知る。
  - ・ 食に関する様々な経験をとおし、食に興味関心をもつ。

## 8. 指導にあたって

### 【児童観】

### 【単元観】

本単元では、生活科との関連も意識し、季節に応じた身近な動植物や食物をテーマにしている。季節を表す詩とともに、身近な植物、生き物、食べ物を表す言葉を配置している。また、本教材の挿絵は夏の風情が示されている。子どもたちは挿絵から身近な生活を想像し、その夏にまつわる言葉をたくさん思い浮かべることができると思う。

さらに、給食の献立や家庭での食事に関連させ、旬を迎える食べ物を意図的に取り上げることにより、季節の食べ物について知っていることや自ら体験したことを表現させやすい。

### 【指導観】

#### (言葉の力)

この単元を指導するにあたり、子どもたちの身の回りの生活場面や経験から出来事や情景を思い浮かべ、夏の言葉集めを行っていく。その際、言葉だけをひろげるのではなく、体験や経験を結びつけることで子どもたちの生活に言葉が根付いていくようにしたい。

#### (考える力)

詩を声に出して読み、提示された挿絵や言葉から思い浮かぶ音や色、におい、夏らしさなどについて自分の考えを交流させたい。また、子どもたちが、五感を働かせて季節の言葉を感じ、その言葉にまつわる自分の体験や日常の場面が有機的に結びついていく学習の場になるようにしたい。

#### (感じる力)

子どもたちは、自然や美しいものに感動する心を持っているものである。しかし、実生活を見ていると擬似的・間接的な体験が増え、人やもの、自然に直接接触するという体験の場が少なくなっている。自然や美しいものに感動する心を回復すべく、日々の生活と季節のつながりにも目がむくように指導したい。

#### (食との関連)

現在では、1年を通して同じ野菜や果物、魚などが売られているため、食べ物には旬があることを知らない子どもが多くなっている。そこで、季節を感じる食べ物にはどのようなものがあるかを気づかせ、食べ物からも季節を感じることができることに気づかせたい。さらに、他の季節の食べ物と比較し、食べ物にも季節によって違いがあることを知り、食についての興味関心を高めたい。また、生活科の学習と関連付けることで、夏を表す言葉集めをする活動への意欲を高めるようにしたい。

9. 学習指導計画（全8時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点（○T1 ●T2）
I (春)	1	1. 挿絵の言葉と詩を手がかりに、春を感じる言葉を探す。 2. 春を感じる言葉を発表する。	○ 挿絵や生活科、日常生活の中で、春を感じる言葉を見つけ、書かせる。 ○ 春を感じる言葉を発表させる。 ● 春を感じる食べ物について考えさせる。
	2	1. 春を感じる言葉を選び、経験と結びつけ、短い文章を書く。 2. 書いた文章を発表し、交流する。	○ 春を感じる言葉を選ばせ、経験と結びつけ、短い文章を書かせる。 ○ 書いた文章を発表させ、交流させる。
II (夏) (本時)	1	1. 挿絵の言葉と詩を手がかりに、夏を感じる言葉を探す。 2. 夏を感じる言葉を発表する。 3. 夏を感じる言葉について考える。 4. 夏を感じる言葉と経験を結びつける。 5. 本時の学習を振り返る。	○ 挿絵や生活科、日常生活の中で、夏を感じる言葉を見つけ、書かせる。 ○ 夏を感じる言葉を発表させる。 ○ 夏を感じる言葉について考えさせる。 ● 夏を感じる食べ物について考えさせる。 ○ 児童に夏を感じた言葉を使って経験を発表させる。 ○ 本時の学習を振り返り、次時の活動を知らせる
	2	1. 夏を感じる言葉について振り返る。 2. 夏を感じる言葉を選び、経験と結びつけ、短い文章を書く。  3. 書いた文章を発表し、交流する。 4. 本時の学習を振り返る。	○ 夏を感じる言葉を思い出させ、発表させる。 ○ 夏を感じる言葉を使って文章をつくることを知らせる。 ○●作例を読む。 ○ 文章の書き方を説明する。 ○ 夏を感じる言葉を選ばせ、経験と結びつけ、短い文章を書かせる。 ○ 書いた文章を読み合い、交流させる。 ○ 本時の学習を振り返らせる。
III (秋)	1	1. 挿絵の言葉と詩を手がかりに、秋を感じる言葉を探す。 2. 秋を感じる言葉を発表する。	○ 挿絵や生活科、日常生活の中で、秋を感じる言葉を見つけ、書かせる。 ○ 秋を感じる言葉を発表させる。 ● 秋を感じる食べ物について考えさせる。
	2	1. 秋を感じる言葉を選び、経験と結びつけ、短い文章を書く。 2. 書いた文章を発表し、交流する。	○ 秋を感じる言葉を選ばせ、経験と結びつけ、短い文章を書かせる。 ○ 書いた文章を発表させ、交流させる。
IV (冬)	1	1. 挿絵の言葉と詩を手がかりに、冬を感じる言葉を探す。 2. 冬を感じる言葉を発表する。	○ 挿絵や生活科、日常生活の中で、冬を感じる言葉を見つけ、書かせる。 ○ 冬を感じる言葉を発表させる。 ● 冬を感じる食べ物について考えさせる。
	2	1. 冬を感じる言葉を選び、経験と結びつけ、短い文章を書く。 2. 書いた文章を発表し、交流する。	○ 冬を感じる言葉を選ばせ、経験と結びつけ、短い文章を書かせる。 ○ 書いた文章を発表させ、交流させる。

10. 本時の目標

(1) 目標

- ・夏を感じる言葉に関心をもち楽しんで探すことができる。
- ・夏の食べ物を探し、季節を感じるができる。(食文化)

(2) 展開

学習活動	指導者の指導・支援 ○T1 (担任) ●T2 (栄養教諭)	評価 (準備物)
1. 本時のめあてを確認する。	○ めあてを確認し、全員で読ませる。	
2. 挿絵の言葉と詩を全員で音読する。	○ 挿絵の言葉と詩を全員で音読させる。 挿絵や詩の中から夏を感じる言葉に気づかせる。	詩の情景を意識し、イメージできているか。【言】 (音読)
夏をかんじる言葉をあつめよう。		
3. 挿絵や生活科でみつけたものを手がかりに、夏を感じる言葉を探す。	○ 挿絵や生活科、日常生活の中で夏を感じる言葉をみつけさせる。 みつけた言葉をワークシートに書かせる。	(準備) ぐみ つゆくさ などの写真
・夏を感じる言葉を発表する。	○ 夏を感じる言葉を発表させる。 ● 夏を感じる言葉を板書する。 ○ 言葉のグループのテーマを決める。 食べ物、生きもの、行事などを決め、いろいろな分野で夏を感じるができることを印象づける。	季節の動植物などに関する言葉を楽しんで探しているか。【関】【書】 (ワークシート) (行動観察) (発言)
・夏を感じる言葉と経験を結びつける。	○ その言葉になぜ夏を感じるかを発表させる。 ● その食べ物になぜ夏を感じたかを考えさせる。  ● 日常の食事では夏を感じる食べ物が他にもないか考えさせる。 ● 生活科で栽培した野菜が夏野菜であることに気づかせる。 ● 夏野菜の特徴について知らせる。	季節の動植物などに関する言葉を意欲的に発表しているか。【関】 (発言) (行動観察)
4. 学習を振り返り、次時の活動を知る。	○ それぞれの言葉には季節(夏)を感じるものがあることに気づかせる。  ○ 本時の学習を振り返らせる。 次回は、夏を感じる言葉を使って短い文章をつくり、伝え合うことを知らせる。	(準備) 夏野菜の 写真 夏野菜の 水分

1 1. 板書計画

1次

夏がいっぱい

めあて 夏をかんじることばをあつめよう。

生きもの

かぶど虫 くわがた つばめ

草木花

つゆくさ あさがお

たべもの

かきごおり そうめん  
すいか トマト

そのほか

花火 プール

2次

夏がいっぱい

夏をかんじることば

あさがお プール すいか

めあて けいけんしたことを文しようにし、友だちにつたえよう。